

数字を考えよう

世の中には、実績や状況を数字で表現しているものがたくさんあります。

数字による統計は、状況を判断する材料として非常に有効で、分かり易く説明するためのエビデンス（根拠）として役立っていると思います。

昨年の2月は、感染者数が二桁という数字に驚愕し、大騒ぎして対応に追われていました。

ところが今では、毎日の新規感染者数が三桁になって、政府や自治体が対応に追われています。

私たちは、メディアから得られる、毎日の新規感染者数や重傷者数の変化、人流の指標から「新型コロナウイルス」の感染拡大状況や医療機関の逼迫（ひっぱく）状況などを知ることが出来ます。

しかし、数字はその裏にある感情的なものを隠してしまう面もあると思います。例えばその一つに重傷者数の推移があると思います。

重傷者数が減るということは、重傷から回復した人の数字だけを表しているだけでなく、残念ながら命を落とした人の数が反映されているということです。新規に重症化した人よりも命を落とした人の方が多ければ、重傷者数は減っていくのです。この悲しい現実を数字から読み取っているのでしょうか。

その他にも、病床数の確保ということでも、単純にベッド数を確保しただけなのか、そこで従事する医療スタッフも含めた実動的な数なのか？数字だけでは判断できません。

進路についても同じことが言えます。たとえば進路先のパンフレットや学校案内等で、「卒業生の〇〇国家試験合格率 90%」とあったとします。この数字をどう考えますか？

その年に卒業したすべての生徒が国家試験を受験したのでしょうか。それとも、ほんの一部のその学校で成績優秀だった卒業生が受験した結果の合格率なののでしょうか？

「数字のマジック」をどう判断するか。数字に惑わされないで賢く生きるためにはどうするかを考えなければなりません。

そのために必要なのは、多くの知識を持つことです。それを活用して、「疑問を持つこと」「事象をあらゆる角度から分析し、判断すること」

そこから「最適な考えを構築して行動すること」が出来るのです。

統計上の数字は学術的に分析され、事実に基づいたものであり、エビデンス（根拠）として有効ではありますが、数字だけを見て、目では見えないものを見逃さないようにしなければなりません。数字の裏にある「人の心」も考えられたらと思います。

そのためには、勉強をして知識を増やし、「だまされない」ようにすることが、自分の将来を豊かにしていくために必要で不可欠なことです。

頑張ってください。

今年度最初の定期テスト

今年度が始まって二ヶ月が経とうとしています。

約二週間後に今年度の最初の定期考査である「1学期中間考査」を予定しています。

昨年度は、年度当初からの「緊急事態宣言」により授業ができず「1学期中間考査」が実施できませんでした。今年度は何とか例年通りに実施することが可能となりました。

個々の生徒の知識定着度合いを把握し、日々の授業改善や生徒の個別指導の資料として活用していきたいと思っています。

生徒諸君の日々の頑張りに期待しています。

保護者のみなさまへ

「新型コロナウイルス」の感染拡大が懸念されてから1年半を迎えようとしています。

本校の活動もこの間「出来ることを出来る範囲で最大限」に行ってきました。学校行事においても例年であれば、保護者のみなさまや地域の方々にご来校賜り、生徒の活動をご覧頂いておりましたが、難しい状況でありました。今年度も状況次第となりますが、生徒

たちが地域に貢献できる存在となり、そのことが、充実感を感じながら、生徒の成長の糧となるとともに、地域創生に役立てるように教育活動を進めていきたいと思っています。

